

## 【小学生の部】鹿児島県知事表彰 優秀賞

### 「災害から学ぶ」

鹿児島市立川上小学校 6年 吉満 策都

ぼくの父は、鹿児島県の道路や橋、トンネルを造る仕事をしています。8月5日、6日の台風5号が通過し、各地で土砂災害が発生したことを父はとても心配していました。父は今、垂水や鹿屋などがある大隅半島で働いています。

「お父さん、大丈夫。」

ぼくは、心配になって声をかけました。

「う、うん。前みたいな事がなければいいけどな。」

と、父がつぶくやくように言いました。ぼくは、前に何が起きたのかを知りたくなくて、父に教えてもらいました。

平成27年6月から8月にかけて鹿児島県垂水市二川地区にて8度も土砂災害が起きたそうです。不思議なことに、土砂災害が続けて起こったとき、それほど雨は降っていませんでした。6月初めから大雨が降り続いたため、地下水が飽和状態に達していたことが大きな原因でした。飽和状態とは、山がそれ以上の水分を吸収できない状態のことを言います。この土砂災害で、国道の深港橋のほとんどを土砂で埋めつくされました。小規模な土砂災害まで合わせると10回も被害が起きたそうです。幸い人的被害はなかったものの、床下浸水や農地への土石流といった被害が発生しました。国道は通行止めや交通規制により、道の駅での売り上げが例年よりも4割も減ったそうです。土砂災害が起こり工事をするときには、その場所で何度となく災害が起こることを予想し、立ち入れない場合もあります。そういうときには、無人の機械で対応をするのだそうです。遠隔操作で重機を動かせることに、すごいことができるんだと驚きました。

「人が入って災害現場の復旧をすることは、二次災害を起こすこともあるんだ。」

と、父が話してくれました。垂水市の土砂災害のときには、この方法で復旧工事が行われたそうです。すべての災害はいつ起こるかわかりません。なので、非常食を準備し、危ないものはどこにあるかを確認、認識し、そして色々な災害に備えておくことが大事です。ぼくは、今まで災害について、あまり考えたことがありませんでした。けれども、作文を書くうちに、ぼくも災害に備えなければいけないと強く思いました。これからは、色々な災害に落ち着いて対応できるよう、ぼく達ができる備えを考え、取り組んでいきたいです。